

(追悼文)

野村俊明先生を偲んで

日本医科大学学生相談室

加藤優子

筆者を日本医科大学の学生相談室に導いてくれた前学生相談室室長の野村俊明先生が2022年1月にご逝去された。野村先生と筆者との間には、阿部恵一郎先生のバウムテストの話が欠かせない。元々、筆者が大学院時代の教授の知り合いということで大学院の実習で阿部先生とお会いし、バウムテストと出会った。阿部先生が研究されているバウムテストは、3枚法であり、何気なく描いた木から阿部先生がすらすらと筆者の性格について解説したことに驚きを感じた。阿部先生と野村先生は、技官の時代の同僚だったようで、野村先生も阿部先生のバウムテストについて語らせると止まらないことについては驚いていたようだ。筆者が日本医科大学で勤めることになったと阿部先生に報告した時に、野村先生と知り合いであることを教えていただいた。野村先生とは阿部先生のお話を、阿部先生とは野村先生のお話をよくした。野村先生と阿部先生が筆者の話をしてくれることもあったと聞いた。退官後に野村先生の書かれた著書を読み、技官の時代に心を揺らしながら臨床をされていたことを知った。筆者の前では、上司ということもあり、ジャッチがはっきりした人という印象だったので、その様子を知って親近感が沸いた。本は、1日で読み終わり、すぐに野村先生に感想を伝えた。その返信が野村先生とのやりとりの最後になってしまった。もっとたくさん教えていただきたいことはあったと今でも思う。

野村先生と筆者と一緒に仕事をしたのは、わずか5年である。当時は、週に1～2日の勤務でほとんど野村先生と会うことはなかった。年に数回であった。初年度の基礎科学の忘年会で同席となり、話したのがゆっくりと話しをした初めだったと思う。野村先生は野球を筆者はソフトボールをしていたという共通の話題で、すぐに打ち解けることができたのを覚えている。野村先生は少し気弱なところがあり、守備の大事な局面では自分のところにボールが飛んでこないように祈っているタイプだと聞き、筆者とは真逆な性格だと話しが盛り上がった。野村

先生は、身体を動かすことがお好きで、大学では空いている時間に卓球やテニスなどをされて過ごしていたと伺ったことがある。また、先生の御著書の中でも、ご自分の担当患者さんとスポーツをされていたエピソードがあった。ぜひ、お手合わせを願いたかった。

野村先生には、筆者が日本医科大学の中で働き方を広げていくために、大変ご尽力いただいた。改めて、感謝申し上げたい。

医大の学生相談室という環境での臨床を教えてくださいました野村俊明先生に、心からの敬意と、追悼の意を表します。